

平成28年度 総務常任委員会管外視察の概要

■視察日 平成28年9月1日（木）～2日（金） 1泊2日

■視察者 総務常任委員（8名）
高木健次（委員長）、緒方勇二（副委員長）、小杉 直
氷室雄一郎、荒木章博、鎌田 聡、小早川宗弘、河津修司
地元議員（1名）
岩本浩治

■視察先 ①開新高等学校 ②南阿蘇村立野地区 ③南阿蘇鉄道株式会社
④阿蘇地域振興局 ⑤阿蘇くじゅう国立公園（長者原ビジターセンター、竹田市久住高原クロスカントリーコース）

■視察趣旨 総務常任委員会が所管する分野の熊本地震による被災状況や復旧・復興に向けた取組みを確認するために視察を実施。
具体的には、私立高等学校のうち被害が大きかった「開新高等学校」、阿蘇大橋の崩落や斜面崩壊による国道57号線の寸断により、住民の多くが村外避難を余儀なくされ、地域コミュニティの維持が課題となっている「南阿蘇村立野地区」、地域の欠かせない交通手段として、また、阿蘇観光を支える基盤として運行し、現在は一部不通となっている「南阿蘇鉄道」、発災当初から管内市町村の復旧支援を行っている「阿蘇地域振興局」などを視察し、関係者と意見交換を行った。
また、環境省が先導的モデルとなる国立公園の一つに「阿蘇くじゅう国立公園」を選定したが、これを好機に、今後、本県でも様々な取組みを行う必要があり、大分県竹田市等り取組みを視察した。

■視察の概要

①開新高等学校

同高校は工業科が主であるが、授業に欠かせない実験・実習棟が被災しました。授業に支障が出ないように仮設の実験・実習棟建設を優先させ、被害のあった校舎、体育館、武道館については、2年をかけて順次改修していく予定とのことでした。

学校からは、私学に対する更なる財政支援についての要望があったほか、災害時に校舎を地域住民の避難所として開放した際の対応についての報告がありました。



②南阿蘇村立野地区

熊本地震により発生した阿蘇大橋地区の大規模斜面崩壊について、斜面上部に残る多量の不安定土砂の崩落による二次災害を防止するための国の緊急対策工事を視察するとともに、立野地区住民である南阿蘇村議会の丸野議員から、地震に続き6月の大雨により発生した土砂災害や地区住民のその後の生活状況について説明を受けました。



③南阿蘇鉄道株式会社（高森町役場）

同社代表取締役社長である高森町長から被災状況と、同鉄道について可能な限り全線復旧を目指す方針についての説明があり、委員からは、これまでの同社の経営努力や沿線自治体の取組みを評価する意見が出ることも、一緒になって国に財政支援を求めていくことを確認しました。



④阿蘇地域振興局

阿蘇地域振興局は、南阿蘇村をはじめとする管内市町村に大きな被害を受け、県の機関として第一線で対応に当たっており、管内の被害状況や復旧状況について説明を受けるとともに、今回の対応を踏まえて解決すべき課題等について、振興局長等幹部職員と意見交換を行いました。



⑤阿蘇くじゅう国立公園

「阿蘇くじゅう国立公園」は、世界の旅行者が長期滞在したいと憧れる世界水準のナショナルパークとして今後整備していく国の「先導的モデルとなる国立公園」に選定されました。これを好機として、地震で打撃を受けた阿蘇の輝きを取り戻すための取組みの参考とするため、環境省の長者原ビジターセンターと大分県竹田市の久住高原クロスカントリーコースといった大分県竹田市等の取組みを視察しました。

